

記者発表（発表・資料配付）				
月日（曜日）	担当課班名	TEL	発表者名 （担当班長名）	その他の発表・配布先
1/23（木）	教職員課 考 査 班	直通：078-362-3747 内線：5665	教育委員会事務局参事兼 教職員課長 八木 康文 （考査班長 近藤 康）	なし

## 令和元年度兵庫県優秀教職員表彰

### 1 目的

日々の学校教育活動において優れた取組を行っている教職員の努力を讃え、当該教職員が表彰を機にさらに意欲的にその実践力を高めるとともに、その成果を普及することで、本県教職員全体の職務意欲・資質能力の向上と本県教育の活性化を図る。

### 2 概要

#### （1）被表彰者

兵庫県教育委員会が任命権を有する市町組合立学校教職員、県立学校教職員の学校教育活動において、他の教職員の模範となる取組を行い、特に顕著な成果をあげている者

#### （2）今回表彰を受ける者

24名

なお、本表彰は平成18年度から実施しており、これまでに481名が受賞している。

#### <学校区分及び内訳>

分 野	校 種			
	県立学校	小学校	中学校	全 体
①学習指導、研修・研究活動	1	8		9
②生徒指導、進路指導			1	1
③課題教育(学校保健・食育、特別支援教育、人権教育、防災教育、その他課題教育等)	2	8	2	12
④開かれた学校づくり、その他の学校教育活動	2			2
合 計	5	16	3	24

### 3 表彰式

（1）日 時 令和2年2月4日（火） 14：00～15：00

（2）場 所 兵庫県公館 第一会議室

県立学校（5名）

No.	所属 職 氏名	主たる分野・主な受賞内容
1	県立 神戸高等学校 教諭 さわだ かずまさ 澤田 一勝	<p>③課題教育（学校保健・食育、特別支援教育、人権教育、防災教育等）</p> <p>平成 22 年度から震災・学校支援チーム（EARTH）の一員となり、平成 23 年度から 5 年間、前任校の環境防災科の生徒を引率して被災地に赴くとともに、防災教育推進講座等で講師を務めた。平成 28 年度には熊本地震被災地、平成 30 年度には岡山県水害被災地（真備地区）に派遣され、現地の教職員に対して避難所運営や児童生徒の実態観察による心のケア等に関する適切な指導や助言を行い、通常の学校教育活動に円滑に移行できるよう支援活動に努めた。</p> <p>これまでの経験から得た知見を生かし、県内外の防災教育担当者を対象とした研修会等で講師を務め、具体的な話をとおして、参加者の防災への理解と防災意識の向上に寄与している。</p>
2	県立 青雲高等学校 主幹教諭 こいけ さとる 小池 寛	<p>①学習指導、研修・研究活動</p> <p>平成 24 年度から 7 年間にわたり、通信制高校に特化した校務支援ソフト Nebula（ネビュラ）を校内の要望を反映させつつ、学習管理、評価成績処理、生徒理解、統計的理解を念頭に開発した。多様な前籍を持ち、学籍や学習、就学支援でも複雑な扱いを要する通信制生徒の実態をよく反映し、校務の効率化に多大な貢献をしている。</p> <p>また、校務支援ソフトに入力されるデータを元に、ホームページ上に学習のための基本情報をデータベース化し、生徒自身が検索し活用する学習支援の仕組み（SeiunWebSchool）を構築し、生徒の学習姿勢の向上に寄与した。</p> <p>平成 31 年 3 月、（一財）日本教育情報化振興会主催「ICT 夢コンテスト 2018」において、これまでの取組についてまとめたものが優良賞を受賞した。</p>
3	県立 宝塚北高等学校 主幹教諭 たけもと ゆうこ 竹本 裕子	<p>④開かれた学校づくり、その他の学校教育活動</p> <p>現任校の演劇科は、昭和 60 年の開校と同時に全国初の公立高等学校の演劇科として設置され、それまで特別非常勤講師が務めていた科長を平成 26 年度に教諭として初めて務め、演劇科の発展と学びの充実に尽力している。校内の一専門学科として改善に取り組み、演劇だけでなく日々の授業を大切にすることを重要視し、演劇を通じた人間教育に努めている。</p> <p>地域・外部連携を積極的に推進し、演劇科の活動周知と地域を元気にする地域貢献に取り組むとともに、大学等との新たな連携も図り、生徒の主体的・対話的で深い学びのプログラムを構築し、生徒の演劇に関する視野を広げた。</p> <p>演劇部の顧問としても熱心に活動し、兵庫県高等学校演劇研究会阪神支部常任委員等を歴任し、広く高校演劇の発展に貢献した。</p>
4	県立 明石西高等学校 教諭 ひおき たかゆき 日置 貴之	<p>③課題教育（学校保健・食育、特別支援教育、人権教育、防災教育等）</p> <p>平成 20 年度県内初の普通科「教育類型」設置以降、担任、科長として、継続して教育内容の充実と生徒の育成に尽力した。平成 23 年度から普通科長として教育類型全体の運営に携わり、周辺学校園等と連携する実体験と自己表現を柱とする「真のリーダーシップ」を持つ生徒の育成をめざし、教育類型の教育内容を充実・定着させた。</p> <p>平成 28 年度からは校内研究主任として大学と連携した研究を推進した。兵庫教育大学が実施している文部科学省委託事業の研究協力校として、主に「生徒の英語発話機会を増やす効果的な授業形態」の研究に取り組んでいる。1 分間フリートークや発話の即興性を促す授業を実施するなど、校内の英語指導法の改善と充実に努めている。地域の学校園関係者を集めた公開授業を実施し、地域の英語教育の充実にも寄与した。</p>

5	県立 東はりま特別支援学校 教諭 はやし つよし 早瀬 確	④開かれた学校づくり、その他の学校教育活動 平成 28 年度より特別支援教育コーディネーターとして、地域の学校園や福祉等の関係機関の連携を推進し、平成 29 年度からは高砂市の専門家チームの一員として活動している。地域の認定こども園や小中学校、高等学校での巡回相談、来校相談を行い、保護者の取り組みの変化を支える保護者支援を続けている。令和元年 7 月、学校と福祉が連携する方法をテーマとする公開研修会を企画、実施した。地域の学校園関係者を含め約 100 名が参加し、学校園と福祉の顔がつながる関係をつくり、連携推進の一翼を担った。 平成 30 年度の兵庫県特別支援教育自立理解推進会議において、地域支援に尽力してきた成果を報告した。その他、県内の学校の研修会等でも数多く講師を務め、特別支援教育の推進に尽力している。
---	---	---

### 小学校（16名）

No.	所属 職 氏名	主たる分野・主な受賞内容
6	伊丹市立 笹原小学校 教諭 みなみかわ さと 南川 佐都	③課題教育（学校保健・食育、特別支援教育、人権教育、防災教育等） 平成 21 年度に長期研修制度を活用し、特別支援教育について学んだ。その後、臨床発達心理士の資格を取得し、関係教員や関係機関と連絡を密にしながら、より高い専門性を生かした特別支援教育を推進している。 平成 29 年度からはこれまでの豊富な経験と卓越した専門性を生かし、学校生活支援教員として市内の通級指導を牽引し、徹底した指導の記録により効果を上げた。また、市の通級担当者のリーダーとして、自己の自立活動にかかる実践や教材、指導法について紹介したり、巡回相談や研修会の講師を務めるなど、通級指導を広めるべく尽力している。
7	伊丹市立 荻野小学校 主幹教諭 こばやし りか 小林 理加	③課題教育（学校保健・食育、特別支援教育、人権教育、防災教育等） 養護教諭として、児童・保護者に対して適切に対応するとともに、保健・安全・防災等に対する専門性が高く、学校の組織体制づくり、マニュアルづくりを推進した。給食アレルギー対応方策やアレルギー発生時対応訓練の実施、校内組織対応の確立、さらに平成 30 年度には関係機関と連携した防災・防犯訓練を企画、実施した。 また、平成 26 年度から「足育」に取り組み、フットプリンターと簡易足計測器で足の現状を各児童に把握させ、靴の正しい履き方や足のトラブルについて保健指導を行った。平成 28 年度からは市内養護教諭の研究として市内各校で足育に取り組み、平成 30 年度の伊丹市学校安全保健協議会で市内児童の足の健康状況と成長発達に合わせた足育指導について発表するなど、積極的に学校保健の推進に努めている。
8	三田市立 ゆりのき台小学校 主幹教諭 みね さんしろう 三輪 三四郎	①学習指導、研修・研究活動 児童に対して育てたい力を明確に示し、「わかる・できる」授業づくりを実現するため実践研究に日々努めている。前任校では研究推進担当として、生活科・総合的な学習の校内研究を牽引した。平成 25 年度から校区にある県立人と自然の博物館と連携して、「深田公園から人と自然の共生を探ろう」の学習に取り組んだ。地域の自然や公園を探る活動や研究員からの専門的な解説等をとおして、人と自然の共生についての理解を深めた。平成 28 年度には全国小学校生活科・総合的な学習教育研究協議会青森大会で実践発表を行った。 現任校においても、これまでの経験と実績を生かし、地域と連携した学習活動や主体的・対話的で深い学びの推進に取り組み、自立した人間の育成をめざす生活科・総合的な学習の充実に寄与している。

9	明石市立 二見北小学校 主幹教諭 加古 久見子	①学習指導、研修・研究活動 児童が学習の見通しをもち、追求したくなる課題設定や主体的・対話的に学習を進めて思考を深めるための単元づくりの研究に取り組んだ。 平成28年度から明石市国語担当者会の幹事長として、年間研究計画策定や授業研究、指導案検討に積極的に取り組んだ。次世代の教員の育成にも尽力し、若手教員への指導や助言を行うなど、市内における国語教育の充実と指導力向上に努めている。 平成26年度と平成29年度には兵庫県小学校国語教育研究会中央大会で授業公開を行った。また、平成30年8月号の「教育科学 国語教育」（明治図書）に自身の教材研究と授業アイデア等の実践内容について執筆した。
10	加古川市立 別府小学校 教諭 萩野 奈幹	①学習指導、研修・研究活動 道徳教育実践研究推進校、道徳教育拠点校育成支援事業推進校の研究主任として、主体的・対話的で深い学びにつながる道徳教育を推進し、評価研究、授業づくりや児童の心を育む環境づくり等に取り組んでいる。 平成30年度兵庫県道徳教育実践研究発表会において、多様な指導方法を取り入れた対話で深める授業づくりや授業での学びを見取り一人ひとりのよさを促す記述式の個人内評価の在り方等の研究内容について実践発表した。県内の校内研修会講師や道徳教育関係の論文執筆を精力的に行い、県の道徳教育の推進に尽力している。
11	加西市立 九会小学校 教諭 高見 裕子	③課題教育（学校保健・食育、特別支援教育、人権教育、防災教育等） 特別支援教育コーディネーターを前任校も含め7年間務めている。前任校では、教職員の専門性の向上や教育・医療・福祉機関との連携を強化した特別支援学校のセンター的機能の充実に尽力した。加西市立総合教育センターの研修講座の講師を務めたり、自主研究活動の幼児期支援研究会を開催したりするなど、ニーズに応じたよりよい指導と支援を行うための指導力の専門性を高めることに努めた。平成23年度播磨東地区特別支援教育研究協議会や平成26年度の加西市教職員教育講演会において自身の取組や特別支援学校のセンター的機能の取組を発表した。 現任校では、これまでの経験を生かし、校内研修の講師を務め、教職員への児童理解や授業改善の提案を行い、教職員間の課題共有に寄与している。
12	高砂市立 中筋小学校 教諭 古門 宜泰	③課題教育（学校保健・食育、特別支援教育、人権教育、防災教育等） 第2期高砂市教育振興基本計画等に基づき、運動に親しむ資質や能力を育て、健康の保持増進のための実践力の育成と体力向上を図るために、学校体育領域からのカリキュラムの再構築や授業改善等に尽力した。調整力・巧緻性・運動感覚を養うリズム運動を毎時の授業に取り入れ、意図的に身体機能を活性化させるプログラムを実践した。 令和元年度は播磨東地区学校保健会理事代議員を務め、学校医、保護者、職員の連携を図り、播磨東地区の児童生徒の保健体育領域における分析考察資料を作成し、学校体育および学校保健の意識高揚に努めている。
13	高砂市立 荒井小学校 主幹教諭 徳永 美子	①学習指導、研修・研究活動 深い学び合いのある授業づくりをめざし、児童の学力向上及び道徳性の育成に努めている。児童のつぶやきを大切に聴き取ることやペア・グループ活動を重視した授業づくりを推進するとともに、ジャンプのある課題（みんなで考えると解決できそうな課題）を設定し、児童の意欲と学力の向上に尽力した。 また、道徳的価値の自覚及び自己の生き方について考えが深まる中心発問づくり、児童の問い返しや対話を大切に授業を学校全体で取り組んだ。道徳科の授業改善を進め、教員の実践的指導力の向上に努め、児童の道徳に関する意識の向上に寄与している。 平成30年12月号の「兵庫教育」に対話により深め合う道徳授業をめざした自身の実践内容について執筆した。

14	姫路市立 東小学校 教諭 瀬戸 和美	<p>③課題教育（学校保健・食育、特別支援教育、人権教育、防災教育等）</p> <p>特別支援学級担任として、難病により人工呼吸器を装着して医療的ケアを必要とする肢体不自由児が普通学校で学習ができるよう、基礎的環境整備や合理的配慮の提供に尽力した。管理職や市教育委員会と連携しながら校内の環境整備を整え、個に応じた学習指導に努めている。児童の体調を考慮して個別の教育支援計画と指導計画を立て、それに基づき学習時程と教育課程を編成し直した。指導方法を工夫することで学習意欲が向上し、学力面での向上にもつながっている。また、児童の保護者に対して、付き添いに係る条件等について合意を形成し、児童に同伴する保護者への配慮も適切に行っている。</p> <p>校内では若手教員への適切な助言や心のケアを含めた関わりを積極的に行い、若手教員の育成の役割も担っている。</p>
15	姫路市立 英賀保小学校 主幹教諭 曾谷 剛史	<p>①学習指導、研修・研究活動</p> <p>平成17年度から姫路市小学校社会科担当者会の地区幹事や庶務、評価副部長、平成22年度から評価部長を務め、市内及び中西播地区における社会科研究の発展と授業改善に寄与した。平成24年度から3年間は庶務として、担当者会全体を取りまとめ、組織の円滑な運営に努めた。特に平成25年度の中西播磨地区小学校社会科教育研究大会城陽小大会では、担当者会と会場校の連携を進め、運営を支えた。平成27年度から2年間は幹事長として、担当者会の先頭に立ち、社会科教育の充実と発展に向けた取組を推進した。</p> <p>これまでの経験を生かし、他市町の担当者研修会等で講師を務め、自身の実践をとりまとめ発表した。若手教員の指導や助言を積極的に行い、後進の指導に寄与している。</p>
16	市川町立 鶴居小学校 教諭 久後 龍馬	<p>①学習指導、研修・研究活動</p> <p>児童のコミュニケーション能力の素地を育む質の高い外国語活動を町内の小学校が同一歩調で取り組むために、町教育委員会やJTE、ALT等と連携しながら体制作り尽力した。第二言語習得についての研究を深め、児童が楽しく言語を習得するための対話型と発表型の2種類の指導モデルを開発した。</p> <p>また、コミュニケーション能力を育成するための校内研修を推進した。自分の考えや想いを表現できる校内風土を醸成するとともに、対話の絶対量を保証するために質問タイムやほめ言葉のシャワー等を全学級で取り組み、児童に自己肯定感を持たせる指導を広めている。その結果、学校全体に互いを認め合う風土が醸成され、傾聴的な雰囲気が高まった。</p> <p>2019年冬号の「白熱する教室」（中村堂）に児童も教師も互いに認め合いながら高め合う学校をめざした自身の実践内容について執筆した。</p>
17	太子町立 太田小学校 教諭 前田 健佑	<p>③課題教育（学校保健・食育、特別支援教育、人権教育、防災教育等）</p> <p>平成26年度から震災・学校支援チーム（EARTH）の一員となり、活動している。平成28年8月、熊本県益城町立飯野小学校に派遣され、児童の実態観察による心のケアを中心に活動し、現地の教職員に対して助言や学校支援を行った。現任校でも防災教育の担当として、大規模校における引き渡し訓練に取り組み、保護者への確実かつスムーズな引き渡し訓練となるよう、年度ごとに改良を重ね、事前の児童への指導と保護者への啓発の充実に努めた。</p> <p>これまでの経験を生かし、町内の防災研修会や県立学校の防災教育研修会の講師を務め、地域の防災教育の推進に寄与している。</p>
18	香美町立 射添小学校 教諭 村尾 克彦	<p>③課題教育（学校保健・食育、特別支援教育、人権教育、防災教育等）</p> <p>平成24年度から震災・学校支援チーム（EARTH）の一員として、被災地に出向き、児童生徒の心のケアを中心に現地教職員に寄り添った支援活動を行った。被災地支援活動の経験から県内外の防災教育研修会等の講師を務め、児童生徒の心のケアについての研修や教職員への災害対策のアドバイス等を行い、防災に対する理解を広めている。</p> <p>兵庫県防災教育副読本「明日に生きる」を防災教育に係る授業でより効果的に活用するために、防災教育専門推進員と連携を取りながら指導案を作成し、平成30年11月但馬地区防災教育研修会で模擬授業を行った。</p>

19	丹波篠山市立 岡野小学校 教諭 青木 良人 <small>あおき よしと</small>	<p>③課題教育（学校保健・食育、特別支援教育、人権教育、防災教育等）</p> <p>平成 24 年度から学校生活支援教員として市内小学校で通級指導を行っている。LD や ADHD 等の障害のある児童への語彙・漢字の習得に関する指導、人間関係の形成やコミュニケーションスキルの向上に関する指導に継続して取り組み、児童の学力向上と自己表現力の育成に努めている。平成 27 年度から丹波篠山市教育支援委員会の委員を務め、幼児期から学齢期へのスムーズな引継ぎに向けたサポートファイルの整備と充実に尽力した。</p> <p>今年度は県立特別支援教育センターの自閉症・情緒障害学級担当講座等の講師や丹波地区教科等指導員、エリアコーディネーターを務め、丹波地区をはじめ県内の特別支援教育推進に貢献している。</p>
20	洲本市立 由良小学校 教諭 難波 秀幸 <small>なんば ひでゆき</small>	<p>①学習指導、研修・研究活動</p> <p>平成 24 年度子どもの体力向上指導者養成研修に参加後、淡路地区や市内の教員研修会等の講師を務め、体育指導者の指導力・技術力の向上に尽力している。現任校では児童の体力、運動能力、運動習慣の向上をめざし、チャレンジタイム、走育プロジェクト、歯科健康教育からの体力の向上の 3 つを軸に取組を展開し、児童の運動能力向上と運動習慣の向上に寄与した。</p> <p>平成 24 年度から震災・学校支援チーム（EARTH）の一員として、被災地で復興支援を行った。この経験から市内小中学校の防災講演会の講師を務め、災害時に自らの命を守ることができる児童生徒の育成に取り組み、防災に関する知識を広めている。</p>
21	淡路市立 北淡小学校 主幹教諭 吉岡 幸広 <small>よしおか ゆきひろ</small>	<p>①学習指導、研修・研究活動</p> <p>平成 24 年度からの市のフロンティアプロジェクト（後のタブレット活用教育推進事業）の初期研修員として、タブレットを活用した授業公開や実践発表を先導的に実施し、研究を推進した。平成 26 年度以降は新たな研修員による研修方法の策定に関わり、研修制度の礎を築いた。授業研究会や研修会を積極的に企画・運営し、自らも授業者となり、タブレットを活用した提案授業を行った。市内全体へ研究成果を発信することで、タブレット活用についての理解が深まり、教員の資質向上に尽力するとともに、現在の市で取り組んでいる学びのイノベーション事業へと発展深化させる基礎を築いた。</p> <p>市のタブレット活用教育推進事業の取組は、平成 26 年 3 月号「教育ジャーナル」や平成 30 年 vol. 3 「VIEW21 教育委員会版」に掲載された。</p>

#### 中学校（3名）

No.	所属 職 氏名	主たる分野・主な受賞内容
22	稲美町立 稲美北中学校 主幹教諭 松尾 恵宏 <small>まつお やすひろ</small>	<p>②生徒指導、進路指導</p> <p>生徒会担当として学級討議や委員会活動を活性化させ、生徒にルールの意味を考えさせながら生徒主体で課題に解決することに努め、生徒自身による学校生活のルールづくりを進めた。</p> <p>平成 27 年度 SNS・スマートフォンのルールづくり、平成 28 年度ノーチャイム制導入に取り組み、平成 29 年度には生徒自身による学校生活の指針づくりを提案し、「INAKITA ISM～北中生の流儀」をつくり上げた。特にノーチャイム制の導入は新聞やテレビにも取り上げられ、生徒は活動による達成感を得たことで学校生活への自信に繋がり、学校全体の教育活動の充実につながっている。</p> <p>平成 31 年 3 月号の「兵庫教育」に生徒自身によるルールづくりを推進した自身の実践内容について執筆した。</p>

23	丹波市立 氷上中学校 教諭 木寺 秀美 <small>きでら ひでみ</small>	<p>③課題教育（学校保健・食育、特別支援教育、人権教育、防災教育等）</p> <p>平成 19 年度以来一貫して特別支援教育に携わり、平成 22 年度からの 7 年間は通級指導担当教員として市の通級指導をリードし、市内多数の中学校で通級指導の在り方を確立させた。様々な教材を工夫したソーシャルスキルトレーニングや早くからタブレットパソコンを導入して視覚支援に活用するなど、その指導により大きな成果を出した。</p> <p>これまでの教育実践を通じた専門的な知識を生かし、県内の研修会等で実践発表や講師を務めている。今年度は丹波地区教科等指導員やエリアコーディネーターを務め、丹波地区をはじめ県内の特別支援教育の推進に尽力している。</p>
24	丹波篠山市立 西紀中学校 学校主幹 難波 義則 <small>なんば よしのり</small>	<p>③課題教育（学校保健・食育、特別支援教育、人権教育、防災教育等）</p> <p>平成 27 年度からの 3 年間、丹波篠山市公立学校事務研究会の会長として、事務の簡素化に取り組んだ。教職員の事務処理による負担感の解消と教職員の立場に立った学校業務改善を推進するため、旅行命令簿の様式見直しと復命書の簡素化に尽力し、事務作業の効率化と能率化を図った。市教育委員会管理運営規則に基づく旅行命令簿を県ポータルシステムに準拠して、内容の照合、旅費精算の整合性を高めた様式を提案し、市の管理運営規則の改正につなげた。</p> <p>平成 29 年度からは丹波篠山市初任者指導事務職員、平成 30 年度からは丹波地区市立学校事務職員研修運営委員会運営委員を務めている。平成 30 年度に県立教育研修所小中学校事務職員研修講座の講師も務め、若年・中堅層の学校事務職員の育成と資質向上に尽力している。</p>